

柱 2-1-(6) 一般廃棄物（収集輸送）

2 年度目標の達成状況

目標	2 年度実績	2 年度目標 の評価	3 年度目標 (設定・変更等)
2 年度 東南環境事業センターの資源ごみ・容器包装プラスチック収集に係る民間委託の拡大 3 年度 東北環境事業センター・西北環境事業センターの資源ごみ・容器包装プラスチック収集に係る民間委託の拡大 4 年度 西南環境事業センターの資源ごみ・容器包装プラスチック収集に係る民間委託の拡大 ※5 年度の目標は、4 年度までの進捗状況を踏まえて設定	<ul style="list-style-type: none"> 2 年度から開始した「家庭系ごみ収集輸送事業改革プラン 2.0」において、「普通ごみ収集業務」「地域連携業務」「管理・監督業務」を将来的に行政で維持する業務、普通ごみ以外の収集輸送業務全てを民間委託化することとし、官と民の役割分担を明確にした上で、2 年度については、東南環境事業センターの資源ごみ・容器包装プラスチック収集を民間委託した。 	達成	変更なし (理由) 予定どおりに取組が進捗しているため。

2 年度取組の実施状況

2 年度の取組内容	2 年度の主な 取組実績	課題	3 年度の取組内容 (課題に対する対応)
① 民間委託の拡大と環境事業センターの統廃合 <ul style="list-style-type: none"> 職員数の減員に合わせ、資源ごみ・容器包装プラスチック収集の委託化を推進する。 輸送効率と災害対策を考慮しながら、環境事業センターの適正配置に向けて、2 環境事業センター廃止のうち北部環境事業センター廃止に着手する。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員数の減員に合わせて東南環境事業センターの資源ごみ・容器包装プラスチック収集を民間委託した。(4 月) 北部環境事業センターを廃止した。(3 月) 	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭系ごみ収集輸送事業改革プラン 2.0」に掲げる目標達成に向けた取組について、引き続き、定期的に棚卸しを行い、進捗状況の点検・必要に応じた改善を図るなど、PDCA サイクルを回しながら、目標達成に向けて各種取組を推進していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員数の減員に合わせ、民間委託化を拡大する。(東北環境事業センター及び西北環境事業センターの資源ごみ・容器包装プラスチック収集の民間委託化)(4 月) 廃止するもう 1 つの環境事業センターについて、南海トラフ巨大地震の被害想定を考慮し、市域の西側にある 4 か所の環境事業センターの中から、輸送効率や付帯施設・跡地の有効活用の可能性などを考慮して検討する。(通年)
② 更なる効率的な運営による市民サービスの質的向上 <ul style="list-style-type: none"> 「公務上交通事故 0」をめざし、更なる取組を推進する。 福祉的サービスの拡充など、地域との連携業務 	<ul style="list-style-type: none"> 安全運転マニュアルの改訂と遵守徹底、外部機関による運転研修の受講等により公務上交通事故削減に向けて取り組んだが、公務上交通事故の削減目標の達成には至らなかった。 粗大ごみのふれあい収 		<ul style="list-style-type: none"> 「公務上交通事故件数 0」(人身事故の撲滅)をめざして、職員一人ひとりの意識改革、各職員の運転意識の向上を図るとともに、運行管理システムに新たに追加した機能等を活用し、公務上交通事故防止対策の強化を図

2年度の取組内容	2年度の主な取組実績	課題	3年度の取組内容 (課題に対する対応)
<p>を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際観光都市を見据え、市民要望のある普通ごみの午前収集を、その課題検証に向け、2環境事業センターで試行実施する。 	<p>集について、需要に応じた収集体制の整備を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中部環境事業センター出張所の所管地域(中央区・浪速区)及び城北環境事業センターの所管地域(城東区・鶴見区・旭区)の一部において、普通ごみ午前収集を試行的に実施した。 		<p>る。(通年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 粗大ごみのふれあい収集対応件数の増加と受付から収集までの収集間隔の平準化に取り組む。(通年) 2環境事業センターにおける普通ごみの午前収集の試行実施により抽出された課題等を検証し、拡大手法について検討を行い、普通ごみの午前収集地域の拡大を図る。(通年)
<p>③ ごみ焼却処分事業との一体的運営の手法を含めた経営形態の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみ焼却処分事業との一体的運営手法も含め、長期的な視野にたって検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭系ごみ収集輸送事業とごみ焼却処分事業との一体的運営のメリット等を検証した。 		<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、安定的かつ効率的な手法を検討する。(通年)

柱 2-1-(6) 一般廃棄物（収集輸送）

3 年度目標の達成状況

目標	3 年度実績	3 年度目標の評価	4 年度以降目標（設定・変更等）
<p>2 年度 東南環境事業センターの資源ごみ・容器包装プラスチック収集に係る民間委託の拡大</p> <p>3 年度 東北環境事業センター・西北環境事業センターの資源ごみ・容器包装プラスチック収集に係る民間委託の拡大</p> <p>4 年度 西南環境事業センターの資源ごみ・容器包装プラスチック収集に係る民間委託の拡大</p> <p>※ 5 年度の目標は、4 年度までの進捗状況を踏まえて設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 東北環境事業センター・西北環境事業センターの資源ごみ・容器包装プラスチック収集を民間委託した。 	達成	<p>4 年度 西南環境事業センター・南部環境事業センターの資源ごみ・容器包装プラスチック収集に係る民間委託の拡大</p> <p>※ 5 年度の目標は、4 年度までの進捗状況を踏まえて設定</p> <p>（理由）</p> <p>市政改革プラン 3.0 の中間見直しの結果、職員数の減員等の状況により、4 年度目標を変更することとしたため。</p>

3 年度取組の実施状況

3 年度の取組内容	3 年度の主な取組実績	課題	4 年度の取組内容（課題に対する対応）
<p>① 民間委託の拡大と環境事業センターの統廃合</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員数の減員に合わせ、民間委託化を拡大する。（東北環境事業センター及び西北環境事業センターの資源ごみ・容器包装プラスチック収集の民間委託化） 廃止するもう 1 つの環境事業センターについて、南海トラフ巨大地震の被害想定を考慮し、市域の西側にある 4 箇所の環境事業センターの中から、輸送効率や付帯施設・跡地の有効活用の可能性などを考慮して検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員数の減員に合わせて東北環境事業センター・西北環境事業センターの資源ごみ・容器包装プラスチック収集を民間委託した。（4 月） 4 箇所の環境事業センターのうち、西部環境事業センターを廃止する方針を決定した。（3 月） 	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭系ごみ収集輸送事業改革プラン 2.0」に掲げる目標達成に向けた取組について、引き続き、定期的に棚卸しを行い、進捗状況の点検・必要に応じた改善を図るなど、PDCA²⁷サイクルを回しながら、目標達成に向けて各種取組を推進していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員数の減員に合わせ、民間委託化を拡大する。（西南環境事業センター及び南部環境事業センターの資源ごみ・容器包装プラスチック収集の民間委託化）（4 月） 西部環境事業センターの廃止に向けて、職員や機材の受け入れ等、具体的な検討を行う。（通年）

²⁷ 施策・事業に必要な要素である企画（Plan）、運営（Do）、評価（Check）、改善（Action）を一貫した流れのものとして捉え、それらを循環させることで、以降の施策・事業の改善に結びつける手法

<p>② 更なる効率的な運営による市民サービスの質的向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公務上交通事故件数”0”（人身事故の撲滅）をめざして、職員一人ひとりの意識改革、各職員の運転意識の向上を図るとともに、運行管理システムに新たに追加した機能等を活用し、公務上交通事故防止対策の強化を図る。 ・ 粗大ごみのふれあい収集対応件数の増加と受付から収集までの収集間隔の平準化に取り組む。 ・ 2環境事業センターにおける普通ごみの午前収集の試行実施により抽出された課題等を検証し、拡大手法について検討を行い、普通ごみの午前収集地域の拡大を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部機関による運転研修を拡大することにより運転の改善を進めるとともに、ドライブレコーダーの映像確認の取組から、運行管理システムの地点登録イベント機能を活用した効率的、かつ効果的な映像確認の取組への移行を試行的に運用するなど、公務上交通事故防止対策の強化を図った。 ・ 粗大ごみのふれあい収集について、受付から収集までの期間を平準化するとともに、対応件数を増加した。 ・ 職員の勤務時間及び家庭ごみの排出時間変更により、普通ごみの午前収集地域の拡大を図った。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ ドライブレコーダー等の映像確認及び研修等による運転指導を強化し、運転改善による交通事故の発生抑制を図る。（通年） ・ 粗大ごみのふれあい収集対応件数の増加と収集間隔の平準化に取り組む。（通年） ・ 普通ごみの午前収集拡大のための取組については、普通ごみ以外の収集業務と関連するため、合わせて検討を行う。（通年）
<p>③ ごみ焼却処分事業との一体的運営の手法を含めた経営形態の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、安定的かつ効率的な手法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一体的運営によるメリットを検討するとともに、焼却処分事業との一体的運営の対象とすべき業務、また一体的運営を行う場合に必要となる準備、コストなどの検討を行った。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 更なる効率化と安定した事業運営が両立できる経営形態について、計画当初と状況が変化したことを踏まえ、改めて、他都市事例等も参考に、ごみ焼却処分事業との一体的運営手法も含め検討する。（通年）